甲第 212 号証

2012.10.27 朝日新聞

多数基原発の危険性、議論

原子力規制委・更田委員インタビュー

国の原子力規制委員会の更田豊志委員は26日、朝日新聞の単独インタビューに応じた。1カ所に多数基の原子炉が立地する原発で、原子炉の数を制限する考えについて「当然そういう議論はあってしかるべきだ。1サイト3基までという運用をとる国もある」と述べ、原発再稼働の審査に必要な新安全基準の策定の際の論点にする考えを明らかにした。

東京電力福島第一原発の事故では、1号機の水素爆発の影響で隣接する原子炉の作業が難航した。更田氏は「2、3号機で対策を打とうにも線量が高く、非常に作業が滞った。だから隣に炉があるのとないのでは全然違う」と指摘した。

安全基準は外部の有識者を交えたチームで25日に本格的な検討が始まった。規制委の5委員の中で更田氏が担当している。「多数基立地や隣接基の有無の議論に目をつぶるのはおかしい。その影響は真剣に考えないといけない。比較的早い時点で論点整理をしたい」と強調した。

さらに「多数基が立地する原発では、原子炉の施設だけでなくいろいろな配慮が必要」と述べ、事故時に原子炉を冷やすための消防車や電源車が敷地内を通る際に、別の原子炉が邪魔になる可能性もあることから、原子炉の配置や、消防車などの数や配置も検討する考えを示した。ただ、具体的な規制の方針については「これからの議論」として明言を避けた。

国内の原発では、原子炉7基を抱える東電柏崎刈羽原発が最多。（西川迅）